



②

3年前まで世界一長いバナナボートづくりなどで人気を博した「地球村冬物語」(主催：知求群会)。コロナ禍のため2年連続で中止となり、3年ぶりの開催となった今回は、イベントの名称を「2023つがる市雪フェスタin地球村」に改め、内容もリニューアル。風もなく絶好のイベント日和となった会場には、市内外から家族連れなど約3千人(主催者発表)が訪れ、イグルーやすべり台、振る舞い鍋、馬ソリなど冬ならではの多彩な催しを満喫していました。

スノー 雪フェスタで冬を満喫!



③



④



⑤



⑥



⑦

- ① イヌイット族が狩猟の時に雪で作る家「イグルー」を再現。中の様子に興味津々の子どもたち
- ②③④ 長蛇の列ができた特製のんにく塩こうじ鍋の振る舞い。用意した約300食を人気アイドルグループ「りんご娘」と「ライスボール」のメンバー4人が来場者に手渡しました。ゴボウやネギ、白菜など野菜たっぷりの熱々の鍋を頼ると体はポカポカ
- ⑤ やきいもやクレープ、やきとりなどのキッチンカーも集合
- ⑥ この日はマフラーを巻いて登場した皆の人気者つがるちゃん
- ⑦ 棒パンづくり体験。棒にパン生地を巻いて、焦げないようにくるくる回しながら炭火で焼き上げます
- ⑧ ポニーの馬ソリ体験。6人ほど乗ったソリでも軽々引いて歩きます。用意した整理券が早々に無くなるほどの人気ぶり



⑧

米陸軍車力通信所所長にサンチェス大尉が着任



12/12
市役所

倉光市長に着任の抱負を述べるサンチェス大尉(右)

12月9日、Xバンドレーダーが配備されている米陸軍車力通信所の所長の交代式が行われ、ノリエル・リー少佐に代わり、デレク・サンチェス大尉が着任しました。

12月12日、リー少佐とサンチェス大尉は倉光市長に改めて交代を報告。サンチェス大尉は「つがる市で働けることをとても楽しみにしています」と話し、倉光市長は「米軍・自衛隊・警察・行政が連携し、より良い関係を築いていけるよう協力をお願いします」と歓迎しました。

サンチェス大尉は、米国コロラド州デンバーの出身。毎日日本語の勉強をしているそうで「がんばって話せるようになりたい」とも話しました。

離任するリー少佐は「快く受け入れてくれて、すばらしい経験ばかりさせていただきました。ここでの思い出は一生忘れません」と感謝しました。

中学バレーボール県代表 本市から3人が選出

稲垣中学校3年の石澤芽依さんと小見山心さん、車力中学校3年の三浦萌玖さんが、JOCジュニアオリンピックカップ「第36回全国都道府県対抗中学バレーボール大会」に出場する「JOC青森選抜女子チーム」のメンバーに選ばれました。

この日、石澤さんと小見山さんは市役所を表敬訪問。石澤さんは「今まで練習してきた成果を存分に発揮できるようにがんばりたい」、小見山さんは「チームのメンバーと協力して1点でも多く取りたい」とそれぞれ全国大会に向けて抱負を語りました。

倉光市長は「全国大会を楽しみながら、県代表として、またつがる市の代表として、精一杯がんばってきてください」と激励しました。

なお、12月26日に行われた全国大会で青森選抜女子チームは、広島および福岡代表に敗れ、残念ながらグループ戦敗退となりました。



12/15
市役所

セッターの石澤さん(中央)とレシーバーの小見山さん

男女共同参画推進委員会 子ども食堂の勉強会を開催

12/17
稲垣ふれあい
センター



講演する川村代表

市男女共同参画推進委員会(北澤由美子委員長)が、年齢や障がいなどの枠を超えて多くの人がつながり、地域の居場所となる「子ども食堂」について、理解するきっかけになってほしいと、ボランティア団体「チームなないろ」の川村沙織代表を招いて勉強会を開催。同委員会委員や子ども食堂に携わる方などが集まり、チームなないろの設立からこれまでの活動、直面してきた困難などを内容とした講演に耳を傾けました。

川村代表は「子どもや高齢者、保護者など多世代が交流でき、一人の人間として認められ、みんなが笑顔になれる場所になってほしい」と設立の思いを語りました。

稲垣ふれあいセンターを拠点に地域の居場所づくりに取り組む「みんな・1〜NA〜」の代表者の傅法谷公二さんは「大変参考になった。もっと工夫して、子どもも大人も自由に来れる居場所づくりをしていきたい」と話しました。